

---

# 銃を撃つ男

みこと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
銃を撃つ男

【Nコード】  
N1311S

【作者名】  
みこと

【あらすじ】  
男が銃をバンと撃つお話。

改札を押し出されるように抜け、家路をたどる。

大学はかつたりーし、電車の隣のオヤジは口くせーし色々めんどくせーなあ。

ポケットに手を突っ込み、ぼんやりとそんなことを思いながら駅の構内を歩く。

コインロッカーの前を通り、何気なくそちらを見るとスーツを着たサラリーマン風の男がロッカーに物を預け、立ち去るところだった。

急いでいるのか？

鍵をズボンのポケットに入れる様子があまりに無造作だった。

当たり前、とでも言うように鍵は先つちよをちよろつとポケットに触れさせただけで地面へと落ちた。

鍵がリノリウムの床を叩く。硬質な音はオレのところはまだ届いたが男は落としたことに気づかずに行ってしまった。

ぼんやり見ていたオレの視界には置き去りにされた鍵がぽつんとあった。

今開けられ、閉められたばかりのロッカーをいくばくかのお金を投入してオレは再び開けた。

鍵を落とすほうが悪いんだ。

辺りを一度だけきよろつと見て、ゆっくりと開ける。

茶の油紙に包まれた何かがそこにはあった。ぱつと見、なんだか分からず取り出してみて思わず取り落としそうになった。

拳銃だ！

驚いたのももちろんだが、思ったよりも重かったから落としそうになったのだ。

もう一度辺りを見回す。先程より念入りに見渡す。幸いこちらを見ている者はいなかった。

ほっと胸をなでおろし、迷いなくオレは自分のバッグにそれを仕舞った。

迷っている暇などないじゃないか。

少し重くなつたバッグを慎重に肩にかけなおして足早に駅を出た。歩きながら迷う。

バッグに拳銃を仕舞つたときは選択肢はそれしかないように思っていたが、改めて考え直すとそのまま置いてきて見なかったことにするという手もあったじゃないかと。

終わったことを考えても仕方ない。

いまさら戻るのは危険すぎる。

サラリーマン風だったあの男が本当にサラリーマンとは限らないのだ。

冬だというのに体にじわりと汗がにじんでくる。

警察に届けるというのもよぎつたが、ロッカーを勝手に開けてしまったことがばれてしまう。そう考えるとその案も却下せざるを得ない。

結局家に持ち帰るしかなかった。持ち帰ってからゆっくり考えよう。

家のドアの前に立つ。辺りを見回す。人影はまったくなかった。鍵を開け室内へと入った。

しっかりとドアに鍵をかけ、狭い部屋の中央にゆっくりバッグを置き、腰を下ろすと急に落ち着いてきた。

つけられている様子はまったくなかったし、オレを特定することは不可能なのだ。

そう思うとなにも怖いことはないのだと思えた。

バッグから拳銃を取り出し、油紙も取り去り、目の前に置く。しげしげとひとしきり見た後、手に取ってまたしげしげと見る。

いざ安心して、こうして実際になんの障害もなく触れてしまつと途端に特別さが失われてしまう。

なんだかつまらない気がしてくる。

ひよいひよいと、右手左手と移動させてもてあそぶ。

何の問題もない。手の中で拳銃はいたって静かだ。

こめかみに移動させてみる。

よくあるよなー、こつというの。

撃鉄を起こしてみる。

起こしてみたら無性に引き金を引きたくなった。

テレビとかでよく見るシーン。

とにかく引いてみたくて仕方なくなった。

引いてみる。

バン！

とはならなかった。

弾は入っていなかった。

(後書き)

オムニバス形式であと2話書く予定。

1話1話で読めるような形にしていく予定。

なので、連載ではないけど続けて読んだほうがもしかしたら分かりやすいのかも。

次を書いたらアドレスこちらに張ります。

というわけで書いたので張ります。

<http://ncode.syosetu.com/n1957s/>

(お手数ですがコピペで。ごめんなさい)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1311s/>

---

銃を撃つ男

2011年10月8日23時11分発行